

鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会

日時	令和4年10月25日（火）10時00分から12時00分
場所	市役所7階 大会議室
出席者	委員16人 坪水徳郎、別府込初男、下小野田寛、皆倉 貢、落司ひとみ、有馬康隆、片野田拓洋、上高原貴子、成島高理、黒岩隆一、和田 滋、伊藤ふさ山之内眞由美、宮下昭廣、隈崎和代、小林千鶴

■主な質疑等

発言者	内容
委員 事務局	1 第2期総合戦略の令和3年度の取組状況等について ○ 鹿屋市の人口減少における年齢階層別の数字を教えてください。 ⇒ 社人研の推計値では、15歳以下は2060年までに9,254人まで減少し、65歳以上も2025年の30,853人をピークに2060年には25,269人まで減少する。15歳から64歳の生産年齢人口については、昭和60年の約66,000人をピークに、2060年は38,338人まで減少し、合計すると72,000人程度まで減少する。
委員 事務局	○ 鹿屋女子高について、人口が減る中で県内各地から生徒が来るような取り組み、男女共学の考えはないか。 ⇒ 今のところ男女共学は考えていない。魅力ある学校づくりとして、既存の3つの科（普通科、情報ビジネス科、生活科学科）が、デザインコース、商品開発、PR動画など自由に選択できる総合選択制の授業の実施や鹿屋体育大学の協力のもとスキル測定や指導者クリニックの実施など4つの部活動で技術向上を図っている。今後、市外からの生徒に対する生活面での支援ができないか検討していきたい。
委員 事務局	○ 鹿児島県農業開発総合センター大隅支場の跡地への企業誘致について、どのようなビジョンを持っているのか。 ⇒ 現在、基本計画の策定準備に入っている。整備については、令和7年度後半から令和8年度に一部分譲を目途に整備を進めている。企業誘致については、需要が高い電子デバイス関連、食品製造、物流関係を大きく想定している。
委員 事務局	○ 「生理に関するアンケート調査及び市民調査」について、結果と公表方法について教えてください。 ⇒ 昨年の4月に実施し、約800名の回答を得た。結果において、生理用品の購入に困っているとの回答が28%あったことを踏まえ、令和3年度に試験的に市庁舎に生理用品を置いた。その利用状況を見て、今年9月から地区学習センターや市立図書館などの公共施設に置いている。アンケート結果については市ホ

<p>委員 事務局</p>	<p>ホームページで公開している。</p> <p>○ K P I の達成状況について、別冊 2 で「×」となっている 4 つ事業を今後どうするか。</p> <p>⇒ いずれの事業についても新型コロナウイルスの影響により達成率が低くなっている。商店街活性化推進事業については、感染症対策を徹底した上でイベントの開催方法を検討する。地元就職支援事業については、市内事業者が就職情報サイトに求人情報を掲載する費用に対し 2 / 3 を補助する制度を開始する。授業力アップセミナーについては Z O O M を活用し全体会を分散するなど開催方法を工夫して実施したい。介護の実地指導については、国の指導指針の改正により実地によらない指導方法を検討していきたい。</p>
<p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p>	<p>2 令和 4 年度の主な事業について</p> <p>○ 市民主体の助け合い支援事業、高齢者の居場所づくりとあるが、具体的な活動を教えていただきたい。</p> <p>⇒ 民主体の助け合い活動を実施する団体への支援制度で、目的は、高齢者の単身世帯や支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、地域住民が主体となって、地域課題やニーズ等の実情に応じて、住民主体のサービスを提供するもの。具体的には、高齢者の自宅において、掃除、電球交換などの日常生活の困りごとに対する生活支援や高齢者のための住民主体の共生、常設型の居場所の設置などを行うグループに補助を始めたところである。</p> <p>○ 市の人口が減ってきている中、職員の果たす役割は非常に大きいと思うが、職員数、年齢構成、今後の採用予定、職員の果たすべき役割についてどう考えているのか。</p> <p>⇒ 職員数は、平成 18 年の 1,067 人から約 300 人減っている。採用については、市民から専門的知識を求められる保健師等の専門職、一般職もデジタル社会に対応できるスキルの高い職員、民間経験者など全体的な年齢構成も見ながら職員の育成と配置を行っているところである。今後、いかに定例的な業務を効率的に回すのかなどを念頭に、職員の育成、配置を進めてまいりたい。</p> <p>○ 男女共同参画推進事業について、市の男性職員の育休の取組状況はどうなっているか。</p> <p>⇒ 令和 3 年度の取得実績は 2 人。子どもが誕生した時、課長自ら状況を確認し、なるべく育児休業で仕事と家庭が両立するような環境整備に努めている。</p> <p>○ 高齢者にやさしいまちとして、高齢者のデジタル普及にどのように対応していくのか。</p> <p>⇒ 現在マイナンバーの普及を進めており、申請済みが約 65%、取得済みが約</p>

<p>委員 事務局</p>	<p>45%となっている。今回、マイナンバーカードの申請手続の中で、家族が一緒になって端末を操作するのを目にしている。スマートフォンの操作についても市内の大手キャリアでもスマホ教室を実施しており、なるべくスマホ操作になれていただくというような取組を続けているところである。</p> <p>○ タブレット持ち帰り運用支援について教えていただきたい。</p> <p>⇒ ギガスクール運営支援センター事業については、専門業者にギガスクール運営支援センターを委託している。主なものがヘルプデスクの設置、例えばタブレットを持ち帰った際に電話で照会して解決を図るといった機能、もう一つはICT支援員1名、スクールサポーター4名おり、その5名を束ねる機能としてギガスクール運営支援センターがある。学校でも教職員の支援、研修会とか操作上のトラブル、設定上のトラブルなど対応する形でセンター事業を新しく組み込んでいる。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>○ 起業・創業については、開業者や商工会と連携しながらやっている創業応援ネットワークがあるが、移住定住対策のオンラインスクールについては、市単独で運営されるのか、我々のような団体と連携しながらやっていくのか具体的な中身についてお聞きしたい。</p> <p>⇒ 移住定住対策のオンラインスクールは、都会で暮らしている方々を対象にセミナー等を開催し、鹿屋を知っていただく、縁を作るところから始め、その延長線上で、鹿屋市で起業したいという方を探している。当然、創業応援ネットワークとも連携しながら取り組んでまいりたい。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>○ 高齢化で後継者がいない事業承継したい方への支援策について、市で専門部署の設置予定など具体的な中身をどのように考えているのか。</p> <p>⇒ 移住定住につなげるため、場合によっては地域おこし協力隊を活用して、そのような取組ができないか検討しているところである。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>○ 他市で、電子の地域振興券を販売する事業を行った際、操作になれない親のスマホを子がサポートして、親もスマホが身近な媒体になってきて使いだすという効果が得られたと感じている。鹿屋市として電子の地域振興券の取組の考えはないか。</p> <p>⇒ ポイント的な部分も検討した経緯がある。経費的な問題も含め、他市事例も検討したが、マイナンバー普及等も半分くらいしかないということで見送った経緯がある。高齢者を含めたデジタル社会にしっかりと対応していくためにはポイント事業的なものも今後検討を進めてきたいと考えている。</p>

<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>3 意見交換（地域に活力を呼び戻すイベントの開催について）</p> <p>○ 既存イベントについての考えを聞きたい。この夏はコロナが増えたりして、やむを得ない事情もあったかと思うが、今後どうしていくのか。7月から延期となっていた「志布志みなとまつり」が先週の日曜日に行われた。10万人近い来場者数があり盛況なイベントであった。主催者側もコロナ対策をしっかりとした上で開催し、実際来場された方もしっかりマナーを守って大きな混乱もなくできていた。このようなイベントを子どもたちが経験すると、地域への愛着が湧くのではないかと思う。今後、どのようなイベント開催を考えているのかお聞きしたい。</p> <p>⇒ 直近の大きなイベントについては鹿屋市農業まつりと、現在実施中の秋のぼら祭りがある。この農業まつりに合わせて、各地区で計画されていたまつりもあったが、人員不足やまだコロナを懸念して実施されていないところもある。国の動きとしても規制を緩和する方向で動いているので、市としても目玉となるようなイベント開催に取り組みたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>○ 10/21(金), 22(土)に、鹿児島銀行本店ビル1階の「よかど鹿児島」で鹿屋物産展を開催した。2日間で購入者数が301人。来場者数は3,000~4,000人あり、全体の5~7%弱の方が鹿屋市の商品を購入された。この施設は、否応なしに完全キャッシュレスの施設なので、買っていただいた商品データが残る。基本目標1の「新たな食のビジネス創出事業」に我々もお手伝いできればと思っている。</p> <p>基本目標2「いつでも訪れやすいまち」について、日曜日に大隅湖花火大会が開催され多くの方が来場されていて盛大に終わった。私の関係者は、みんな感動していて涙を流す職員もあり非常に良かった。</p>
<p>委員</p>	<p>○ 私たちは、マルシェを中心に民間団体でイベントを開催しているが、3年ほどイベントの開催ができなかった。今年、「鹿屋よかもん」を一緒に開催させていただき7,000から8,000人ぐらいの集客があった。私たちは、コロナ禍においても安全にイベントが行えるようマニュアルを作成した。これからのイベントに対しても、スキルを上げながらサポートしていけるようにしていきたいと思っている。</p> <p>勤務先で、今年は夏祭りを開催し花火を上げた。初めて花火を見る子どもたちもいた。今まであったものを、これからどのように対策を考えながらやっていくのか、マニュアルも提示するので自由に活用していただきたい。かのや夏祭りについて、中止を残念がる声もたくさん聞いている。</p> <p>鹿屋市と一緒にいろいろなイベントをサポートさせていただいているが、集客においてどこをターゲットにするのか、誰に来てほしいのか、何を提供していくのか、そういうところを考えながら、見せ方、伝え方に関してはメディアやSNSを活用して応援していきたいと思っている。イベントが再開できるのを楽しみにしている。</p>

委員	○ 鹿屋は肉、魚、野菜がおいしい。そのような食材を使っておいしい食事を提供してくれる飲食店も多々あるので、おしゃれなものよりも、その食材とかをメインにするのがいいのかなって思う。全体として、広報がすごく大事で、市民が鹿屋に対して誇りをもてるような広報をしていただきたい。
委員 事務局	○ 全国旅行割が始まり鹿屋市内のホテルもかなり込んでいると思うが、旅行割の効果はどうか。 ⇒ 旅行割については本市での効果はあまりない状況だと思う。ただ、8月以降は帰省客や米軍の関係もあり、どこのホテルも稼働率は高いと聞いている。
委員	○ コロナ禍でイベントを休止しているのはすごくいい時間だと思う。何のためにやるのか、どういった形でやることができるのかを考えるにはいい時期と思う。地域の活力を呼び戻すイベントのテーマであるが、やっている側の人々がハッピーになれるイベントが一番いいのかなと思う。たくさん集客することも大切だと思うが、やる人が活力を持って取り組めるようなイベントにしていただければと思う。一例で言うと、以前は1,000人以上来るイベントだったものを、コロナ禍で100人とか200人くらいの小規模でやったら、意外にそっちの方が良かったなという声もある。他のイベントをどんな風にしていくのか考えるとき、まずはやる側の人たちが楽しくできる視点も大事なのかなと思う。
委員	○ 私はツール・ド・おおすみに関わっているが、一番思うのはスポーツと「食」ではないのかなと。近隣地域も巻き込んで、それぞれのところで食事を提供いただいたり、エイドステーションでおいしいものをを出していただいたりとか参加するサイクリストの方も景色も「食」も楽しみにして来ていることをすごく感じているので「食」を活かしているいろんなイベント開催がいいのかなと思う。